BOOK GUIDE
今月のブックガイド

こどもジェンダー

シオリーヌ（大貫詩織）著
ワニブックス
定価 1540 円（税込）

「わたし」が語る性教育

性教育 YouTuber シオリーヌ著『こどもジェンダー』は、こどもに向けて、こどもの身近な生活のなかでのジェンダーをわかりやすく説明するもの。カラフルなページとポップなイラストは、絵本のようで手に取りやすい。パラパラめくるだけでも楽しいが、実はかなりのボリュームである。

服や玩具、ランドセルやキャラクターなど、あらゆるものが男女で二分されるジェンダーバイナリーから始まり、お父さん・お母さんの役割、「ふつう」とされる性別役割やジェンダー規範、そして、セクシュアリティの多様性まで、性のさまざまな側面について具体的な場面を挙げながら問いかけていく。小学生ならひとりでも読めるし、幼児に読み聞かせるのもよいだろう。もちろん、若者やおとなも社会のジェンダーをどう変えていけるかを考えるのに役に立つ。

ここで挙げられているテーマは、従来、性教育の実践者やジェンダー研究者が「問題」としてきたものばかり。長年、「これはジェンダー」と指摘し続けてきたことだ。でも、本書ではそれらを「問題」ではなく「問い」にしている――「あなたはどうおもう？」と。これは、これまでの性教育にみられがちだった教える姿勢と大きく異なる点だろう。正しい知識を教えようとするのではなく、こどもとの対話を始めること。こどもの意見を正すのではなく、認めていくこと。つまり、これはジェンダーをめぐる対話を開く本なのだ。

どのテーマでも、「どうすればいいかな？」「どうかんがえればいいかな？」とこどもの行動や考えを促しながら、「こうつたえてみるのはどうかな？」と提案する。著者のアイデアがどんどん出されるのも本書の特徴だ。もちろん、それを選択するのはこども自身。おとなから発信して、アイデアを語る。そして、こどもが考え、こどもが選択することを待つ。こうした著者の姿勢が、こどもが安心して学び、変化していく力を育むように思われる。

番外編の「みんなちがって、みんな『いいね！』」では、他者との関係性について説明されている。ここまで読み進めてきたこどもは、ジェンダーを考えることと友だちと楽しく過ごすことが同じであると気がつくはずだ。お互いの「ちがい」があるのは当然であり、どんな人も色や役割やキャラクターなどで分けられるものではない。自分で選べて、相手の選択肢を狭めない。そんな「いいね！」がつく社会に向けて、幼いうちからこどもたちが対話を重ねることの大切さを再認識する本である。

著者の「CHOICE 自分で選びとるための『性』の知識」（イースト・プレス、2020 年 12 月）は、思春期から青年期の若者、そしておとな向けのもので、具体的でわかりやすい。これもキーワードは、選択（CHOICE）。生理用品や避妊方法、恋愛や交際、性行動まで、メリットとリスクを知り、選択する自分になるのを応援してくれるような一冊。助産師であり児童思春期病棟で心のケアを学んだ著者だからこそ、若者に近い目線で話題を選び、若者にわかる言葉で伝えられているのだろう。新刊「もやもやラボ キミのお悩み攻略 BOOK ！」（小学館）も楽しみ！

YouTube の性教育シリーズもオススメ。最近アップされた「モヤモヤしない結婚式のために私たちがこだわったポイントを紹介します！」では、パートナーとともにご自身の結婚式のエピソードを披露。“新婦が父親から新郎に引き渡される”儀式のモヤモヤを「出荷感」と表現されていた。出荷！（欄外アドレス参照）

「わたし」の感覚から語られる言葉の力は絶大だ。パワフルな性教育は、「わたし」の語りから始まり、対話へとひろがる。性教育の新時代が始まっている。

（大阪大学大学院准教授　野坂祐子）

（https://www.youtube.com/watch?v=S6blcRmKlVM）